
催眠電波

タケノコ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

催眠電波

【Nコード】

N2912I

【作者名】

タケノコ

【あらすじ】

科学者が開発した催眠電波。それは、電波を受けた者を本人の意思とは関係なく、自由自在に操れるもので……

(前書き)

コメディ系のショートショートです。お暇なときにご覧ください。

「ふふふ、この催眠電波をテレビにのせれば世界はわしのものに！」

科学者Aは早速、催眠電波を自宅のテレビから若者向け内容の番組に送信した。

「今回、送ったのはわしを好きになる催眠電波だ！自宅からだからここ近辺にしか意味はないだろうが……まあ様子を見に行ってみるか」

しかし、だれも科学者Aに強い好意を示さなかった。

「……しまった！ここには……老人達しかいない！」
そう。ここは、高齢化がかなり進んだ島だったのだ。

「むむっ！なら、老人達だけでも支配下においてやる！」

テレビの時代劇ものに、支配するための催眠電波をのせた科学者A。

その頃、島で一つだけある公民館では

「ずん、ずん、ずん、ズンドコ！」

「……よし！」「」

なんと、かの有名な 川き し本人が歌っているではないか。

「クソッ！まさか、島民全員が 川き しを見に行っているとは……」

少し思案する科学者A。

「こうなったら……」

ここは島で一番大きなアンテナのすぐそば。

「ここから本州に催眠電波を飛ばす。そして、私は日本の支配者になり、世界制服の足掛かりにしてやる！！くらえ！」

そう言いながら科学者Aは、大きなアンテナに繋いであるパソコン操作し催眠電波（相手を支配し科学者Aを王と崇める）を発射した。

「ウー！何の変化もないではないか！！」

科学者Aの放った催眠電波（相手を支配し科学者Aを王と崇める）は何の効果もなかった。

しかし、科学者Aが放った催眠電波（相手を支配し科学者Aを王と崇める）はあるものに届いていた

「ワレワレの、ホシのオウニ！！」

そう言いながら宇宙人達は科学者Aを連れ去っていった。

「ち、違う！私は地球の支配者に……」

宇宙人には、効果が少し違っていたようで、科学者Aの意思は無視されてしまった。

おしめし

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2912i/>

催眠電波

2010年10月20日19時24分発行